

(令和2年10月12日)

< ワンポイントレッスン (理論・基礎知識) >

(分散投資と集中投資・その5 (最小単位での買付代金))

4回にわたって分散投資と集中投資についてみて来ました。インデックス連動の分散投資は別にして、分散投資であれ集中投資であれ、共に自己の投資可能な金額に対してどこまで銘柄数を組み入れることが出来るかは、重要な問題。これは各銘柄の最小単位での買付代金に依存します。下表は、1銘柄・1単位を購入するのに必要な買い付け代金の分布を、表にしたものです。2019年末時点の分布、平均採用銘柄をみれば50万円までで189銘柄(84.0%)の買付が可能、東証第一部上場銘柄では92.5%が購入可能となっています。100万円あれば、複数の銘柄に分散した高いパフォーマンスを目標とするポートフォリオを組むことが可能…、銘柄を分散した集中投資です。そして、下記にあるようにインデックス連動は別にして銘柄の株価水準や業種などを分散すれば、インデックスとの連動が高まるのが一般的です。いずれにしても、平均指向や高パフォーマンス指向を意識して複数銘柄に投資できる環境は整っています。

・日本・株式、個別銘柄の最小売買単位での買付代金

日経平均採用銘柄の買付代金

2019年12月30日で算出

売買代金	1～50万円	50～100万円	100～150万円	150～200万円	200万円以上
銘柄数	189	26	5	1	4

↓

売買代金	1～10万円	10～20万円	20～30万円	30～40万円	40～50万円
銘柄数	37	58	46	27	21

- ・日経平均採用225銘柄では、189銘柄が50万以下で買付が可能、東証第一部市場上場銘柄では、92.5%の銘柄が50万円以下の買い付けすることができ、投資金額100万円として5銘柄から10銘柄の分散投資が十分可能となりました。
- ・ただ、インデックス連動型、あるいはインデックス+ α のポートフォリオとなると、日経平均連動では単純平均なので値嵩株を外すと連動性が劣ること、TOPIXは時価総額加重なので最低売買単位で全ての銘柄を買付る方法では連動しなくなります。
市場(取引所)買付られる売買単位以下での投資が可能なサービスの利用や、投資信託などでの売買が一般的となります。

分散投資・集中投資について5回にわたってみて来ました。分散投資は平均パフォーマンス指向 集中投資はハイパフォーマンス指向というよりは、買付け代金を〇〇銘柄に分散してインデックス指向、ハイパフォーマンス指向と表現した方がすっきりすると筆者は思います。そして、時間を経過しても意図した通りになっているかどうかのチェックがより重要、ポイントです。